

「資料のよみとり」
～今、自分たちができることは～

1. 学年・組 6年東組 34名

2. 目指す子供の姿

課題に対して他者と協力しながら積極的に取り組み、自分自身とは違う考えを共有し認めあっている中で、自身の考えを深めることができる子供

3. 本時における「子供とつくる学び」

算数科の統計学習では、表やグラフといった統計データから、特徴をよみとって結論を考察する力を育成していく。また、PPDAC サイクルを意識して、自分たちで問題を設定し、分析し判断した結論についても別の観点からの妥当性を検討できるようにする。

本単元における子供の課題は、算数を身近に感じておらず、課題を自分ごととして捉えられないことである。

今回、大阪の新型コロナウイルス感染者数を統計的にみるという課題を設定した。数値だけみるのではなく、1日ごとの発表者数・年代別感染者数から考えること新たな気付きがあると考え。また、病床率やインフルエンザと比べた時の死亡率などの側面を提示することで、新型コロナウイルスに対する新たな側面から自ら課題を設定し、データから分析していこうとする力を養う。実態をデータからよみとることで課題を自分ごととして捉え、コロナ感染者数を減らすためにも自分ができることは何か、考えるきっかけにつながってほしい。

4. 「子供とつくる学び」を実現するための手立て

本授業では、大阪の新型コロナウイルス感染者数を統計的にみるためにも2つの手立てを用意する。

1つ目は、**異なったグラフの提示**である。

今回導入で、大阪府と東京都の累計者数縦グラフを提示する。一見みただけでは、大阪府と東京都の累計者数が同じに見える。次に横棒グラフの提示をする。こちらはすぐに、東京都の方が感染者数が多いことが分かる。2つのグラフを提示・比較することで、同じことを示したグラフでも統計的に表す時に相応しいものはどれか考えるようになることを期待する。

2つ目は、**複数の資料の提示**である。

今回は、各地域の1日ごとの発表者数と年代別感染者数を提示する。その中で必要なデータを選択し、様々なデータから実態はどうかを多角的に捉えられるようにする。そのためにも、まず、どのような資料があるのかを全体共有しておきたい。また、発表する時にも、**どの資料からよみとれたことなのか根拠を伝える**ように促す。

データを読み取ることは算数だけでなく、どの教科でも必要である。異なる資料を比較したり、資料からよみとったことを表現する活動を通して、資料の新たな見方を養うことで、今後は情報を一面的に解釈せず、自ら課題を発見できる力を養うようにしたい。

5. 教材について

本教材を通して子供は、算数の授業の中で身につけた基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、新型コロナウイルス感染者数について考えることができる。資料からよみとったことをもとに必要な情報を選択し、それをもとにについて考えるという課題をつくる。その課題に対して、どのようなデータを集めるかについて計画をたて、集めたデータを分類整理する。分類整理したものから特徴や傾向をつかみ、新型コロナウイルス対策について考えられるようにする。

本教材から解決すべき問題に対して、どのデータを用いるのかによって結論が異なることはあるし、用いるデータが同じでも、その分析の仕方や着目する点により結論が異なる力を養う。そして、メディアの情報をすべて鵜呑みにするのではなく、本当に正しい情報なのか根拠をもって考えることができるようにしてほしい。

6. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
資料の特徴をとらえやすくするために、適切なグラフを選択し、よみとれる情報を相手に伝えようとしている。	複数あるデータから適切なデータを選択し、そこから1つのデータからはよみとれない新しい情報をよみとろうとしている。	データから情報をよみとり、よみとったことから自ら新たな課題を考えようとしている。

7. 単元計画

次	時	内容
1	1	新型コロナウイルスについて学び、学習課題をたてよう。(総合科)
	2	資料から必要な情報をよみとり、課題を設定する。(★本時)
	3	必要な情報を調べ、整理しよう。
	4	整理したことから特徴をつかみ、今できることを考えよう。

8. 本時の目標

統計的な見方・考え方を働かせながら、必要なデータを選択し、そこからよみとれる情報を相手に伝えることができる。 【思考・判断・表現】

9. 本時の展開

